
撫子の会
会報
 第3号
 1993.7.14発行
 東京学芸大学附属
 小金井小学校 同窓会

「撫子の会」発足会

盛大に行なわれる

— 豊島・追分・小金井の同窓会がひとつに —

平成四年十一月八日（土）附属小金井小学校体育館において三校の同窓会「撫子の会」発足会が盛大に行われました。当日は、天城勲同窓会会長、嘉戸脩校長をはじめ、各附属校役員、旧教官、同窓生など総勢三百余名が出席、総会のあとに行われた懇親会でも三校の輪が大きく咲き、懐かしく、楽しいひとときを過ごしました。

「撫子の会」発足について

今回の発足は、創立八十周年、開校三十周年の記念式典、同窓生名簿の作成活動を基調としています。豊島小・追分小・小金井小がひとつになり、同窓会活動を活性化、推進するとともに三校の、統一された同窓会の発足により同窓生全員の拠が改めて明確化されました。

そして三校は同じ撫子の徽章を掲げるとい

う意味で「撫子の会」としています。今回の発足会に於ては、当日同窓生の皆様によってご承認を頂いた「撫子の会会則」に基づき、会長・顧問・役員（副会長・評議委員・理事・監事）が選出され、組織の統一が更にはかられるとともに、会の目的、運営などがより明確化され、三校の同窓生の共通の認識が確立しました。

（「撫子の会会則」、役員人事については後面を参照してください。）

天城勲 会長の話

「小学校はけずりたての鉛筆の匂い。」
 初めて持った筆箱をあげた時の、あの新鮮な鉛筆の匂い。新生撫子の会。

皆様方のご協力によりまして、東京学芸大学附属豊島・追分・小金井小学校同窓会が一緒になり、めでたく「撫子の会」が発足致しました。明治四十四年開校、源流の語にふさわしい豊島校。文京区本郷、関東大震災後の帝都東京のモダンニズムを伝える追分校。武蔵野のただ中にありエネルギーあふれる小金井校。この三本の鉛筆が一緒になって「撫子の会」がここにあります。小学校は我々全てにとって、共通の心の故郷です。またこの機会に若干の感想及びお礼を申しあげたく思います。この会の結成までに多くの方にご助力をいただきましたが、中でも母校小金井校の嘉田校長、横山副校長、藤原教務主任の三先生には本当にお世話になりました。厚くお礼

申しあげると共に今後共宜しくお願い申し上げます。さて皆様ご覧になりました様に、この会場には八十名に及ぶ昔の先生方からのお便りが飾ってございます。先生方からそれぞれに一筆書いていただいているのですが、その中に驚山先生とおっしゃる今年九十一歳にもなられる先生方のお便りがあり、大変お元気との事です。この様にして我々同窓生と恩師の先生方と母校の先生方と一緒に、今後共この「撫子の会」が発展する事を心から期待して、ご挨拶にかえさせていただきます。



嘉戸脩校長の話

本日は、学芸大学附属の豊島・追分・小金井各校の合同同窓会発会、おめでとうございます。これまで各附属別々活動していたのを、一本化するという事で今後はより充実した、力強い活動になる事と思います。さて、これまでの卒業生の数は今年三月の段階で一万二千二百五十三名で、それぞれの卒業生は同窓会名簿でご覧の通り、各界で大活躍しています。これから卒業する人にとっても、非常に強力な味方であり頼もしい先輩である事でしょう。今後共暖かい援助、励まし等をいただければと思います。ところで現在の学校の方ですが、四つの附属校の中では最も敷地面積も広く、大きな新しい施設を有する恵まれた環境にあります。在校生も六学年二十四クラスの学級編成でこれも四校中では、一番大きい規模になっています。またこの学校の特徴として、昔の伝統を引き継ぐ海や山での生活があります。子供達は在籍する六年間で一ヶ月位の海や山での宿泊生活を経験し、精神的にも肉体的にも鍛えられ、自立的な態度も身につけて卒業していきます。さらにこの学校は教育研究の場として、先日「感じ、動き、高める」というテーマのもと、各地より多くの先生方にお見えいただき、研究発表会を行いました。それらの様々な研究活動を通して、子供達は心も身体も知的な面も育まれ果立っていつております。とはいえ、この学校もま

だまだ不備な点もありますので、卒業生の皆様には側面からご援助いただければ幸いです。それでは、この良き日にあたりこの「撫子の会」のますますのご発展をお祈りして、お祝の言葉とさせていただきます。

撫子の会に対する
今後への抱負

— 更なる 充実を —

副校長 横山 正

まず、第一は、会員名簿の充実です。80周年のとき作成した会員名簿は、実に20年ぶりのものでした。これは、今は故人となられた原山さんはじめ、多数の卒業生の方の苦勞の結晶ですが、殆ど新しい名簿を作るのと同じくらい大変な作業でした。今後はできれば、5年に1回くらい会員名簿が作れるようになると思います。

第二は、会員への連絡をもっと盛んにすることです。学校の様子や恩師の近況、同期会の呼び掛けなど、いろいろな情報を提供することで、同窓会の意義も高まってくるのではないのでしょうか。これは、会員名簿の充実にもつながりますが、同時に手間、費用の問題を抜きにしては考えられません。

第三は、学校関係の歴史資料の収集と整理です。小金井小学校は別にして、豊島・追分の資料と思えば、年々風化しつつあります。

これをしっかりとそろえ、豊島・追分の存在の証を永遠に残していく必要があります。すでにいろいろな方から、写真、映画フィルム、



賞状、印刷物等、貴重な資料が集まりつつありますが、できれば将来同窓会として、三校の歴史資料を、常時展示できるようにしたいと考えています。

その他、都心の交通の便のよいところに、同窓生が気軽に集まれる会館のようなものがあると大変便利です。また、増改築の終わった一字荘や新しく立てられた至楽荘等の利用の呼び掛け、同窓会総会の定期的な開催等、いろいろ活動が考えられます。

— 撫子の強さに期待する —

中村 隆勝

(昭和13年豊島小卒)

藤田 暉夫

(昭和19年豊島小卒)

五十年前程前、池袋駅から見上げると、東京名産おこしにも似た校舎、真中に輝く撫子の校章は威風堂々としていた。

コの字型の校舎は、東京芸術劇場に姿を交

え、豊島の校名も既になく、唯、記念碑だけが残されている。

同じ制服、制帽、撫子の徽章を身につけ、同じメロディの校歌を唱う。形だけでなく、血の通った継承が、小金井のキャンパスに脈脈と流れ、撫子の花は今も咲き続けている。

三校合同の同窓会はこんな土壌の上に発足した。

三校共々の同窓会は、時の流れと撓り所が定かでないため、休眠状態にあり、同窓生にとってはどうすればよいか、豊島開校八十一年の歴史を感じておられる小金井小教官の方々には、一つの節目でもあった。

今般、第一回総会が、多くの問題を処理して開催された。規約も新しく作られ、撫子の回は正式にスタートした。

三校の世話人は、勿論今迄一面識もなく、年齢にも可成りの開きがある。しかし撫子の園の教育根幹「正強美親朗」を共有共感していることが、見事なチームワークであった。

今後、この素晴らしい撫子の会に求められることは、跡絶えることなく継続すること、そして多くの同窓生が、会を通じて交流を密にすることであり、この交りの中から、多くの機能を生み出し発揮していくことであろう。撫子は、可憐で強く咲き続ける花と信じる。



「撫子の会に思うこと」

藤沢 治美

(昭和26年追分小卒)

豊島・追分・小金井の三附属小学校が一つの同窓会をスタートさせることになりました。校章が「撫子の花」であった学芸芸大附属校です。豊島の跡地は池袋の芸術劇場となり、追分は区立中学となっております。桜並木の見事な小金井校舎に全部が移りました。合同の同窓会準備のために、思いがけなくお手伝いをさせていただきましたが、こまごまとした諸雑事はつきものですが、御理解ある兄弟校竹早の皆様のお力添えもいただいて何とか乗り切りました。それにも増して驚きましたことは、八十年の歴史があったことにより、古き良き時代を御経験の人生の先達である御年長の先輩の出現でした。追分の第一期生の方は昭和二十三年の卒業です。先輩といえども、ほぼ同世代の方々です。豊島のその御年長の先輩の方々が、また実にスマートで心あたかなのに加えて、ものの見事な団結ぶりをお示しになるのです。これは二重の驚きでした。そして、若き小金井の後輩の方々は、樹木の茂る好環境のキャンパスで、のびのびと勉学できたのでしょうか、おおらかさと実行力には脱帽と言ってよろしいでしょう。そして私も追分は家庭的な自由な雰囲気の中で学び、本郷という由緒ある立地で遊びまし

たから、マイペースでいつの間にかなにかをやっていると気が負いのない感覚でお手伝いできた幸せです。御指導いただきました諸先生方はじめ、あらゆる皆様に感謝して、今後の発展につながることを祈るばかりでございます。



私たちのなでしこ

— 小学校の思い出 —

「豊島の撫子」

田中 澄江

(大正10年豊島小卒)

私は、八十歳を超えた現在も、月に一、二度の山歩きを欠かさないが、晩夏から、初秋の山道で探すのは、カワラナデシコのうちす紅の花である。採ってくるのではない。その花を見出せば心が和む。卒業した豊島師範附属小学校の校歌の中に咲いていた花である。「ムラサキ生うる武蔵野の豊島の園の撫子は」と歌いはじめる。大正年間のその頃、池袋駅の西口から、豊島の本校の白亜の建て物の前の校門まで、歩いて五分とかならなかったが、両側はソメイヨシノの並木と麦畑。文房具屋とパン屋、理髪店と花屋だけが点在するだけのわびしさであったが、すでにムラサキや、カワラナデシコの咲く武蔵野の風情はなかった。ただ、通学の度にわたる駅の陸橋からは母校の校舎のうしろに立教大学の赤煉瓦の塔がそびえたち、そのはるか西に武蔵野の雑木林の連なるのが見えた。晴れた日には富士山も見えた。

豊島師範の本校には、東京音楽学校(今の芸大音楽部)を、お蝶夫人で有名な三浦環や、府立第一高女(今の白鷺高校)の音楽の先生をされた鈴木信子両嬢と同期に卒業された山本正夫先生がおられて、日本全国ではじめて師範学校にオーケストラを組織され、本校と合同の音楽会ではヘンドルの「ハレルヤ」コーラスの高音部を、小学校五年六年の女子

生徒が歌ったりして、なかなか高度の音楽教育を受けた。

ミヤマミミナグサ、ミヤマツメクサ、フシグロセンノウなど、私はナデシコ科の花を特に好む。豊島の校歌の撫子のなつかしさが今も鮮やかに胸に生きているから。そして卒業後七十年、今も「なでしこ十年会」を男女合同でひらいている。

(劇作家)

「終戦と今」

金子 修也

(昭和25年追分小卒)

小学二年で終戦を迎えた私たちに、最初に配られた教科書が「民主主義」。ずい分ていねいに教わった。はやりの歌が「東京ブギウギ」から「ハイハイブギウギ」そして美空ひばりへと移ったころ、稲葉先生が担任として着任なさった。ご専門は社会科だからという訳ではない。GHQ(進駐軍総司令部)の胆入で、社会科中心のカリキュラムが組まれた。一つのテーマにたいして多くの課題を結び付けるその方式が、アメリカ本国でも導入されていない実験的教育と知ったのは後になってのこと。テーマが「交通機関」であれば、駅を訪れて駅長さんの話を聞く。交通博物館を何度か見学する。路線図の読みかたを学ぶ。駅舎や電車の模型を工作する。分かりやすいアナウンスメントを作文する、読む。班に別れて発表用の図表を作る。各人でレポートをまとめると、こんな具合だ。

テーマはほかにあった。郵便、放送、警察、消防……。図表の共同制作では、後に歯科医になった田中君が細密イラストに秀でていた。高島君は明朝体

でタイトルを書くのがうまかった。私は?図表は壁に張って見上げるのだから、タテ長の文字にしよう、トンボの?Bで濃さをそろえようなどと、アートデザインレクターの発想。

そんな訳でデザイナーの道に進み、JR新宿駅の構内誘導サインをデザインするなど、つまり小学時代のまま、進歩なしなのです。

(金子さんは現在G・Kグラフィックス社長として活躍中。発足会案内状のデザインは金子さんによるものです。)

「同期」

大川 和彦

(昭和35年豊島小卒)

このところ豊島の同期と久々に飲む機会が続いた。特に意味があつて集ったわけではない。何かで連絡を取り合った二人が、なんとなく身近で消息のわかっているひとり、ふたりに電話をして集った次第である。附属の中学、高校と進んだ同志もいたのでまったく小学校以来ではないが、それにしても楽しかった。今年四六歳。胴回りが気になり、髪の毛も薄くなったり白くなったり。しかし不思議なものがある。顔を合わせたときに三〇年以上もタイムスリップできるなんて。会社の話、仕事の話が出る。家族の話も出る。政治、経済から国際情勢までまさに堰を切ったように情報交換が行なわれる。それぞれがそれなりに責任のある立場に居ることもあつて、本来「懐かしさ」を語り合うはずが「忙しさ」を話し合ってしまうのは致し方ないところかも。

戦後のベビーブームに産声をあげた我々は「団塊の世代」という表現でいつもひとかたまりにされる。組織の中では、殆どが強い個性を發揮せずに上司に

従順であり、部下の突き上げを必死でまともようにするタイプだそうである。しかし同期意識が強いだけに、組織の活性化を阻害する派閥に与することはしない。なぜならば、いくら上司にゴマを搦つても見透かされ、これまで熾烈な競争を続けてきた厳しい観察眼を持つ同期達の支持を得ることがなによりも大切だとお互いに知ってるからである。

夕方からの飲み会では時間が足りない。今度は是非一泊のゴルフ旅行でも計画して、「懐かしさ」とこれから始まる「我々の時代」とゆっくり話し合いたいと思う。

「伝統と新生としての撫子の会」

早川 洋
(昭和39年小金井小卒)

その伝統は小金井小学校に受けつがれているにせよ、実際に通学した母校が周囲の環境ごと跡形もなく消えてしまったというときどき思い出しは茫然とします。

しかし一方で、もし母校が廃校にならず、卒業して三十年、新校舎が建設されたり街並が変化したりする様子を継続的にながめていたら、こうも鮮明に母校のイメージが残ってはいなかったかもしれない、と思うこともあります。

清濁合わせてありとあらゆるものがあふれかえっていた昭和三十年代の池袋のイメージと渾然一体となって、ぼくは消えてしまったからこそ変わりようのない、生々とした豊島の記憶を持ちつついていま

す。

遅刻しそうなとき走り抜けた、裏通りの朝のけだるい様子。校舎の廊下のワックスの臭い。すべり降りては先生にしかられた彫刻のほどこされた階段の手すりの感触。遊び疲れて体育館で聞いた屋根を打つ雨の音。何だかよくわからなかった会議室のミロのビーナス。体育館の屋根裏や地下道の探検。下校時によくのぞいたショーウィンドの何十匹ものシマヘビ。そして何より、賢そうでしかもちょっと悪そうな友人達の頼もしい笑顔。

さまざまな事情で散り散りになっていたそれらの膨大な記憶の断片が、何十年ぶりで再び一ヶ所に集まる機会が「撫子の会」として、ついにおとすれました。

来年の第二回総会で皆様にお会いすることを心から楽しみにしております。

(早川さんは岩崎ちひろ記念館などの設計で活躍中の建築家です。)

「私の小学校の思い出」

笹路 正徳
(昭和43年小金井小卒)

私の小学校時代は、異常に幸せな学校生活を送る事が出来ました。それは、中学、高校、大学時代と続く学生生活の中でも圧倒的に幸せな時期だったのです。小学校、中学、高校等と、それぞれそれなりの楽しさがあり、それは比較出来るものではないというのが、一般の感覚かも知れませんが、私の場合比較可能なのです。そして、数人の或いは十数人のクラスメイトも、同じ様に思っている筈です。私達のクラスは、三年生の時にクラ

ス替えがあり、その後六年生まで四年間同じクラスメイトと過ごしたので、よた親睦も深まったのでしよう。驚く事に、今でも、親だけのクラス会というのを、子供にことわりも無く行なっているのです。当の私達は、クラス会も暫く無く、大抵の同級生と十数年御無沙汰なのですが、特に仲の良かった友達とはたまに電話で話したりもしました。そんな時、電話で相手の声を聞いた瞬間から、敬語なしの、オマエ、オレ呼ばわり、相手をバカにしたりと変に懐かしさなど出さず、あたかも小学校六年生が電話をしている当時と同じ状態となります。そうなる事が僕達の友情表現であり、同じ様に幸せな小学校生活を送った同胞としての確認なのです。親友とは何だろう塔と考える事がありません。親友とは、一年間ある程度の回数会わないと親友とは呼べないのだろうか、いやいや、十数年会っていない親友というのも成立つのだ、と思ってみたりします。

私達の担任は馬淵先生という人で、一にも二にも、この素晴らしい先生がゆえの幸せな生活だったのです。私達は恐らく全員この先生の生徒だという事を誇りに思っていましたし、愛していました。恩師だとはいえ、小学校の一担任が、人生の上でこんな重要な存在となるのは普通に考えてかなりめずらしいのではないかと思います。本当は今まで述べた様な事は文章にしたくはないのです。友達同志はそんなことばっかしたい事云わず、ずっとオレ、オマエ呼ばわりしてたいのです。(笹路氏は日本を代表する若手編曲家のひとりとして人気アーティストの楽曲アレンジ、プロデュースに御活躍中です。)

大きく咲いた

撫子の輪

|| 懇親会、盛大に開かれる ||

体育館で行なわれた「撫子の会・発足会」に続いて、場所を給食室に移して懇親会が盛大に行なわれました。懇親会では懐かしい旧教官の方々、二十二名を含め総勢三〇〇余名が出席、三校の杯をこえ、また時の流れをこえて、それぞれが「エンピツの匂い」を感じ



ながら楽しいひとときを過ごしました。総合司会を担当していただいた大川和彦さんの進行により、横山副校長、寛副会長、沼野副会長、佐々副会長のあいさつの後、柴田銀松先生による乾杯のご発声により会はなごやかに進行し、出席したどの顔も小学生そのものといった感がありました。藤田理事のあいさつの後、すっかり名物となった金子理事の締めにより無事に終了。皆、次回の再会を誓いました。

先生方のお便り

「撫子の会」発足会に向けて

懐かしい先生方よりたくさんのお便りが届けられました。

(敬称略・アイウエオ順)

坏 広八郎

現在、中野区立下鷺宮小学校に勤務しております。

阿部 義理

「ご案内状ありがたく拝見いたしました。お世話役大変、苦勞様です。当日多くの方々にお会いできるのを楽しみにしています。よろしく。」

飯田 秀一

「撫子の会」発足おめでとうございます。申し訳ありませんが、私用で出席ができません。「盛会をお祈りしております。皆様によろしく。」

石川 弥生

家庭菜園で野菜、草花を作り趣味のちぎり絵をして過ごしております。「盛会を祈ります。」

石黒 ミナ

昭和二〇年四月〜一月の追分の職員、追分小からつづいて二師附属追分小教員。ずっといるつもりのところ、突然都に出向の発令。短い在職。終戦前後のこと。私にとって印象強烈。公立追分小の卒業生は母校を失い、同窓会を失い、あの地域に土着する人も少なく、かわいそう。撫子の会に吸収(?)された人は幸せ!!現東大農学部は、昭和一八年まで第一高等学校。私など古い人間は、ああ玉林にーも懐かしい。

石塚 健治

「撫子の会」発足会の準備等誠に「苦勞様です。その労苦に敬意を表します。当方元気に過ごしております。当日を楽しみに出席のお返事をいたします。」

伊津野 朋弘

当日は都合により出席出来ず、残念に思っています。「盛会を祈ります。」

伊藤 一朗

教え子に会えることを楽しみにしています。よろしく。

稲葉 雄次

お陰様で元気です。毎日近くのプールで泳いでいます。都合で欠席します。「撫子の会」の発展をお祈りいたします。

岩永 正史

山梨大学につとめて三年になりました。現在、大学院修士課程設置を前に雑用に使われています。

岩本 廣美

一〇月三〇日の研究発表会には伺いますが、一二月八日はあいにく都合がつかず出かけられません。皆様によろしくお伝えくだされば幸いです。

櫻本 隆治

総会の発足、心からお慶び申し上げます。「発展を心からお祈り致しております。」

遠藤 慈郎

お陰様で、元気で過しております。会の「発展をお祈り致しております。」

大野口之吉

「撫子の会」発足おめでとうございませす。歩行困難で外出できませんので残念ながら欠席いたします。

大橋 武男

中央区の京華小から豊師附小、それから学習院とかわり学習院に約四〇年務めて昭和五二年三月定年退職後私立の大和郷幼稚園長となり約一〇年務めて六二年三月退職しましたが、名誉園長の資格で、文京区私幼連合会の副会長、都私幼連の理事としてボランティアで働いております。(学習院名誉教授・大和郷幼稚園名誉園長)

岡 虎夫

残念ですが先約あり、やり繰りつかず欠席いたしました。「盛会を心から祈ります。毎日注射をしている病気持ちですがそれでも元気で、テニスをしたり、魚釣りをしたり、カラオケで深呼吸したり、体調を維持しています」

岡村 由紀子

お招きありがとうございます。小金井小学校に在職したのは、たった三年でしたが、いろいろな所で小金井とのつながりがあります。今度もある卒業生の方のつながりで一ヶ月講師をすることになりました。「附属に在学した」「在職した」ということで話しが始まったのです。不思議な縁です。

岡本 広子

皆さんにお会いするのを楽しみにして居ります。「招待ありがとうございます。」

小川 格

「撫子の会」発足を心からお祝申し上げます。当日を楽しみにしております。

片峰 三雄

昔豊島師範学校として成田千里先生が着任されました。(当時片峰は本校の五年生)都合七ヶ月指導を受けましたが、自分の気持ちとしては師範学校の二年のときから五年間を通して教えていたいたよいうな気がしております。そして考えることは、ハテ僕は小学校の先生を三九年もやったけれども何人の方々が覚えてくれるのか?と思うと、成田校長先生に申し訳なく思っております。戦争前頃の午後電車の中で向こうは「先生」が駆けつけてきてくれるので胸キュン、見れば担任外のお子さん、どなたの時の卒業ですかと聞くところ〇〇先生と胸を張っております。ああ、あれが電車の中で紙など集めてキレイにしたんだなどと言つと「良く覚えてくださいました」と小さな豆つぶがポロリ…乗客の方々がニコニコでした。ボクは子供の時は、弱くて泣きべそを一回は泣きました。豊島師範時代、便所そこじと剣道場の床磨きをして心身が丈夫になりました。

柄沢 渥子

撫子の会の発足おめでとうございませす。昨年八月に当地(群馬県)に居を移し一年近くなります。空気が水、景色その他もろもろ気に入ってすっかり生活にも馴染みました。群馬の空より会の発展をお祈り致して居ります。

川口 渥子

「撫子の会」発足おめでとうございませす。皆様方の準備へ向けてのご苦労は大変だったことと思えます。おかげで多くの方々の心の寄りどころが出来、懐かしい、嬉しい想いでいっぱいのごとと思えます。私も弟達も豊島小で学び、私が豊島小へ教育実習でお世話になり、小金井小で勤めさせていたとき、感謝と喜びでいっぱいです。主人の勤務の為、米国へ参りますので、欠席させていただきます。御発展を祈っております。

木川 達爾

当日予定があり出席できません。「盛会と今後の発展を祈念いたします。現在文教大学に勤務し、大学教育学部の授業と文教大学専門学校の仕事をしています。これも今年度で終了し、来年度からは、五十年心に自由になります。少しはお役に立つ仕事をしなければと考えています。おわびと近況をお知らせまで。皆様の「多幸を祈りつつ。」

菊地 光秋

東京学芸大学名誉教授。尺八・琴古流師範、演奏ならび指導。(菊地水盟) 七七歳、喜寿を超え、少々足衰える、残念。

菊田 英一

国分寺六小に勤務しております。(九三年四月より目黒区立鷹番小)

窪 延子

豊島小学校にお世話になっていた頃から四〇年経ち、私も十二歳のおばあちゃんになりました。腰も背中も曲りましたが元気で家事にいそしんでいます。卒業生皆様の御活躍をお祈りしております。

熊谷 更新

準備会の皆様「苦勞様です。盛会を心からお祈りいたします。定年退職後、五年を経過しましたが、相変わらず女子高で元気にやっています。おかげで気力、体力ともに充実しています。

小島 宏

元気でやっております。小金井小学校の同窓生が各方面で活躍していることを嬉しく思っております。小金井小学校ゆかりの方々の益々の健康、一活躍、小金井小学校の御発展を心よりお祈り申し上げます。

腰山 太刀男

しばらくの間息子一家が文京区に私たち夫婦が茨城の方に居ります。小貝川のほとりで魚つり、「ゴルフ、サッカーなど楽しんでおりおかげで健康であります。東京都退職校長会の副会長で東京の機会が多く、いたり来たりしています。「撫子の会」おめでとう。追分の頃を思い出します。三本の柱が一本になり太くなり益々発展するよう心から祈っております。

小西 真理子（土屋）

「撫子の会」発足会のお知らせありがとうございます。三校の同窓会の実現素晴らしいですね。「撫子の会」では、子どもと先生・先輩と後輩・父兄と先生のつながりが深く、豊島、追分、小金井三校の輪はさらに深く大きく素晴らしい輪になるでしょう。東北にも「撫子」の輪が広がることを祈ります。

小林 弘

平成元年四月に退官して以来、この一〇月で三年と六ヶ月になります。幸いなことにこれと言った病氣も無いので、引き続き研究の生活を送っています。

今年の夏にはオランダで行なわれた、国際珪藻学会に出席し、研究発表も行ってきました。研究だけは当分現役で頑張っていきたいと思っております。

小林 森

学芸大附属小金井小にとって大変素晴らしいことを実現させたことに敬意を表します。小金井小こそ豊島小、追分小の伝統を継いでいるからです。発展を祈っております。

小山 昌一

撫子の会、発足会、まことにめでたし。準備にあたっての方々の労に感謝。私は豊島附小には、昭和一四年から一八年まで、都庁、教育庁に一六年間、その後校長を務めあげた。現職中から退職後の今日まで財団法人豊島修練会の常務として、また成美会館長として母校関係の仕事に当たっている。昨年は一宇荘増築、今は至寮荘の全面改装中である。

佐々木 敦子

撫子の会の発足おめでとうございます。今、広がることしている大きな輪の中の一人として、皆さんの出合いを懐かしく思い出します。現在、教職は退いて家庭にいます。主人と娘の三人家族、スポーツや自然とのふれ合いを楽しんでいます。

佐藤 都巳

本年東京学芸大学を退職。本年三月より日本女子大学へ勤務しました。いたって元気です。

佐藤 正

健康第一を心掛けております。

佐藤 中庸

七年前に退職しましたが、その後から体調をくず

し医者通いをしました。現在までに三回入院し、今年の四月に胆石と胆のうをとってから、少しずつ体調がよくなりつつあります。総会のご成功をお祈りいたします。

柴田 銀松

お陰様で体調も崩れず元気に過して庭仕事や電子工学の勉強を続け、生涯記執筆など致しております。ご案内ありがとうございます。

四宮 真佐男

老齢のため引籠り中で失礼致します。合同同窓会「撫子の会」の発足を祝い、各位の御熱意に寄り盛会、今後の発展を期します。

島崎 晃

元気にやっております。池袋を週一回は通りますので昔の跡をフラついて豊島の者を思い出して居ます。

白井 鉄兵

小金井を出てから一〇年間、元気にやっております。（八王子にて）撫子の会発足おめでとう。これからの発展を祈ります。

菅野 信正

お通知ありがとうございます。三小が一体となつての同窓会、すばらしいことです。「盛会を祈ります。

杉山 久子

発足会のご案内ありがとうございます。ちよび旅行中に当たっておりますのでなつかしい皆様にお目にかかれることが出来ず大変残念です。これから御発展を祈っております。

杉山 文雄

おかげさまで健康で時には島に出たり、スポーツを楽しんだりして寿命を大切に過しております。そ

して、目下社会福祉法人東京蒼生会の老人福祉のお手伝いをしております。

高浦 浩

元気に頑張っています。研究発表会を控えて大変な時期にご案内し苦勞様です。何分遠くにおりましてなかなか上京がままなりません。ご盛會を祈ります。先生方にごようざようざよう。

高玉 ハル子

当日法事がありまして欠席。皆様によろしく。

高橋 静枝

今般は撫子の会総会にお招きいただき誠に有難うございました。せっかくお招き頂きましたので、ごいですが足の故障で参会出来かねますので何卒お許し下さいませ。十一月の発足会の御盛會を心よりお祈り申し上げます。

高橋 米博

ご成功をお祈りします。元氣なみんなを想像しております。又いつか会える日もあることを楽しみにしています。都合で欠席しますがよろしくお祈りします。

田中 延男

当日は、東京都の教育派遣研修にてオーストラリアにいらしておりますので残念ですが欠席させていただきます。御盛會を心からお祈り申し上げます。

玉置 悠子

お忙しい中、「撫子の会」としての同窓会発足の御準備をおすすめいたしたきありがとうございます。当日は恩師の一週忌の御法事に伺つてことになりましたので、同窓会には欠席いたします。御盛會をお祈り致して居ります。

田村 貞司

「撫子の会」の発足に心より感謝いたします。附属時代の諸々の財産に支えられ、教育行政の仕事に従事しております。総会、楽しみにしております。

田村 善美

「撫子の会」発足準備、苦勞様です。懐かしい卒業生の皆様とお目にかかりたいのですが当日、他の用事と重なってしまい残念ですが欠席させていただきます。わたくしは現在、専業主婦に納まっています。毎日、忙しく過しております。「撫子の会」のご成功とますますの御発展をお祈りしております。

千葉 正康

当日地域の活動の為残念ですが出席できません。撫子の会の一層の「発展を祈念致します。

長田 耕一

撫子の会の発足会の準備、誠に苦勞様です。残念ですが、欠席させていただきます。皆様にごようざようお伝えください。

西村 文男

健康で毎日を楽しんで過しております。現在は跡見学園女子大学へ勤務し、若い女子学生と青春を創造しております。「撫子の会」の発展を心から祈っております。皆様によろしくお伝えください。

橋本 ヨシ

撫子の会の発足おめでとございませす。先生方にお目にかかれるのは楽しみみのひとつですが、この度は都合悪く出席できません。新しい会の発展を心よりお祈り致します。

長谷 昭

平成四年三月二二日をもって教職生活二八年を無事に終え定年退職いたしました。現在は、母校学会大

学の講師と渋谷教育センターとで教育相談及び就学相談に携わっております。大学へ行くとき附属小学校のところを通っておりますので、折を見て寄ってきたいと思っております。今回の撫子の会がいつまでも続き、一層大きくなれるように祈念してやみませす。おめでとございませす。

花村 操

昭和二一年四月から二五年三月まで、四年間追分校に勤務しておりました。退職後は主婦業に専念しております。ただ今は茶道、陶芸、コース、地域の老人クラブに入り、毎日忙しいくらの生活をしております。

平松 讓

讓、お世話様に預かります。当日都合で申し訳ございませんが、失礼させていただきます。よろしくお祈り申し上げます。

平山 久子

豊島・追分・小金井小学校の三校同窓会「撫子の会」発足、総会大変嬉しく思っています。総会に出席できず残念ですが、次回を楽しみにしています。お陰様で私も元気に、ピアノを教えたり、週に一度は保育園で音楽リズムを担当しております。

廣田 宏

豊島附属小から都の小学校へ勤務して退職まで約四〇年の教員生活を送りました。退職後、野村證券株式会社嘱託として海外子女教育を担当して五年間、現在は鶴川高校にて道徳教育の時間講師をしております。趣味は園芸とゴルフ。お陰様で健康にて生活しております。(昨年古稀を迎えました。)

福田 梅生

退職後も、短大と教員養成所に勤め、元氣にやって

藤島 清雄
おります。

「ご連絡をいただき有難うございます。誠に申し訳ありませんが欠席させていただきます。お陰様で元気に動めています。」

藤田 新吉

一日二日を大切に、特に脳梗塞後の健康に専念しております。撫子の会の発足に当たり「尽力」くださった皆さんに感謝しております。当日は募参のため田舎に行っておりますのでせっかくの招待にも拘わらず残念ながら出席できません。悪しからず、お許しください。「盛会を心よりお祈りいたします。」

星野 正男

拜復、折角の計画に対し、欠席で申し訳なく思います。当日予定の行事を控えておりますので失礼致します。

松村 好子

「撫子の会」発足会、おめでたいでございます。「盛会」お祈り致しております。当日は体調でも出席できず、誠に残念でございます。内科、眼科に一月一回通院しており、まあ年相応の健康で過しております。皆様様によろしく。

三宅 迪子

相変わらず雑用には追われながら元気に過しております。午後は小中学生相手の仕事があつて外出できませんので失礼いたします。「撫子の会」総会の盛会をお祈りいたします。

宮越 喜二郎

昭和二十四年に退官、三十五年より竹早附属小に勤務し、六二年に退官しました。現在元気で日本と海外を往來しております。外国各地で卒業生の諸君と偶然会

うことが多くあり、地球もせまくなった感があります。当日先約があり残念ながら欠席いたします。「盛会を祈ります。」

向山 彌

体調を崩し、通院しながら自宅で療養を続けております。

村上 真佐子

退職後三〇余を専業主婦で過しました。近年は趣味を楽しむ時間が多くなりました。大過なく今日までこられたことを感謝しつつ暮らしております。「盛会を祈りあげます。」

村山 いい

最近体調を崩しておりますが四人の孫に恵まれて、楽しい生活を送っております。

村山 伊予助

病後のため歩行困難ですので欠席いたします。

目賀田 八郎

懸案事項の成就、心からお慶び申し上げます。このことについての各位の「尽力」心から感謝申し上げます。現在私は、学芸大学の非常勤講師の他いくつかの研究所に所属し、相変わらず社会学科の勉強をしております。これもひとえに撫子の会のみなさまのお蔭で感謝しております。

両角 亮治

「撫子の会」発足おめでたいでございます。「ここまで準備されるまでの」苦労は大変だったと思います。心から感謝申し上げます。発足総会にお招きいただき有難うございました。万難を排しても出席したい気持ちですが、当日大事な先約があり、地方に出かけますので、誠に残念ですが欠席いたします。立派な新発足ができますことを心より祈っております。

山下 源蔵

昭和十七年三月末日までわずか三年間の豊島附小でしたが、担任の縁組さんはさみどり会を作り延々と今日まで私は毎回出席しております。そのお嬢さん方は六一歳、私は八一歳。サイドワークからライフワークとなった短歌の仕事に精進し、主催する月刊歌誌「短歌生活」は今年創刊二十五周年の祝賀退会を催しました。撫子の会のスタートを心からお慶び申し上げます。

山本 徳一

老境ベットの中です。九八歳

鷺山 重雄

来年三月で九〇歳。会員の皆様よりずっと老年ですが比較的元気です。大変意義ある会ですので老年ながらお仲間に入れて戴きたく思います。今後の御発展を祈りあげます。

渡辺 正

やむを得ぬ事情のため欠席させていただきます。「盛会」を祈ります。

渡邊 孝三

「撫子の会」の発足を心よりお祝申し上げます。当日は私の講演会が予定されておりますので残念ですが欠席させていただきます。

その他、田宮進先生、馬淵金勇先生、村上穂先生、渡辺正八先生より「返事をいただきました。」



撫子の会 会則

1. 東京学芸大学附属小金井小学校創立80周年、開校30周年を契機に、本校同窓会と東京府豊島師範学校附属小学校（明治44年創立）及び、東京学芸大学東京第二師範学校追分附属小学校（昭和20年創立）の同窓会を統合して、「撫子の会」とする。
2. この会の本部を東京都小金井市貫井北町4-1-1東京学芸大学附属小金井小学校内におく。
3. この会は、必要に応じて、支部をおくことができる。
4. この会は、会員がお互いに親睦を深めることを目的とする。
5. この会の目的を達成するために次のことをする。
 - 1) 会報の発行。
 - 2) 会員名簿の整備と発行。
 - 3) 懇親会などの各種集会の実施。
 - 4) その他この会の目的を達成するため必要なこと。
6. この会の会員は、次の特別会員と正会員とする。

特別会員
正会員が学んだ次の各号に記される学校の教職員。

正会員

 - 1) 東京学芸大学附属小金井小学校の卒業生。
 - 2) 東京府豊島師範学校附属小学校（同 国民学校、東京第二師範学校附属国民学校、東京第二師範学校男子部及び女子部附属小学校、東京学芸大学東京第二師範学校豊島附属小学校、東京学芸大学附属豊島小学校を含む）の卒業生。
 - 3) 東京学芸大学東京第二師範学校追分附属小学校（東京学芸大学附属追分小学校を含む）の卒業生。
 - 4) 2)及び3)に記される各校の高等科の卒業生。
 - 5) 上記の各校に在籍し、途中で他校に移った者で、この会に入会を希望する者。
7. この会に次の役員を置く。
 - 1) 会長 1名、副会長 3名
 - 2) 評議員 50名以内
 - 3) 理事 17名以内
 - 4) 監事 3名以内
8. 評議員は、総会において正会員の中から選出する。
9. 理事及び監事は、評議員会において正会員の中から選出する。但し、この会則による第1回目

- の理事及び監事の選出は、総会において行うものとする。
10. 会長及び副会長は、理事会において互選により選出する。
 11. 会長はこの会を代表し、会務を統一管理する。副会長は会長を補佐し、会長不在のときはその職務を代行する。
 12. 役員の任期は、3年とし、再任することができる。
 13. この会に顧問をおくことができる。顧問は、原則として会員の中から、理事会が推挙する。
 14. この会の総会、会議は次のとおりとする。
 - 1) 総会は、会長が召集する。但し、理事会が必要と認めるとき、または、100名以上の正会員の請求があったときは、臨時に総会を開かなければならない。
 - 2) 総会の決議は、出席正会員の過半数で決する。但し、予め書面で意思表示したものは出席したものとみなす。
 - 3) 次の事項は、総会に提出し承認を受けなければならない。
 - (イ) 収支決算
 - (ロ) 評議員の選出
 - (ハ) 会則の改廃
 - (ニ) その他理事会または会長が必要と認めたこと
 - 4) 評議員会は、評議員および理事で構成され、その決議は、出席評議員の過半数で決する。但し、予め正面で意思表示したものは出席したものとみなす。
 - 5) 理事会は、この会則に定める事項の外、総会より付託された事項を処理する。
 - 6) 理事会は、理事の過半数の出席により成立し、その決議は、出席者の過半数により決する。
 15. この会の資産は、入会金、寄付金、その他の収入による。
 16. 正会員は入会金として、2,000円を卒業時に納める。但し、6項5)の正会員は、入会時に納める。

付則

1. この会則は、平成4年11月8日より実施する。
2. 東京学芸大学附属小金井小学校同窓会の資産は、この会が引き継ぐ。

至楽荘新築成る

海の道場＝鶴原「至楽荘」で、快晴の六月十二日（土）午後一時より、勝浦市長・漁業組合・工事関係者・小金井市教育長等約七十人の出席を得て、新築落成式が行われた。

【教育人之子者は天下之至楽也】成田千里校長の書を前に、至楽荘の名前の由来が説明され、業者に感謝状と記念品が手渡された。続く祝賀会では、昭和9年の棟上げの時、撒く予定の餅が頭に降ってきて、当時十歳だった漁協組合長は動けなくなるほど拾ったというこぼれ話が披露された。漁師による木遣り対し、附属関係者は至楽荘の歌で応えた。

約四億円に及ぶ費用は、(財)豊島習練会から支出されている。まさに、心身習練を助成するという目的に叶う事業で、主に使わせていただく附属小学校としては、関係者一同に深く感謝したい。新至楽荘の完成は、後日「水泳訓練で自立心を 勝浦に新臨海学校」という見出しで、千葉日報にも掲載された。

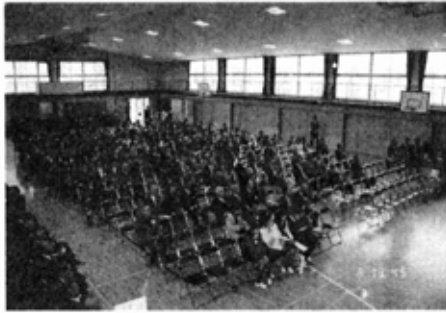
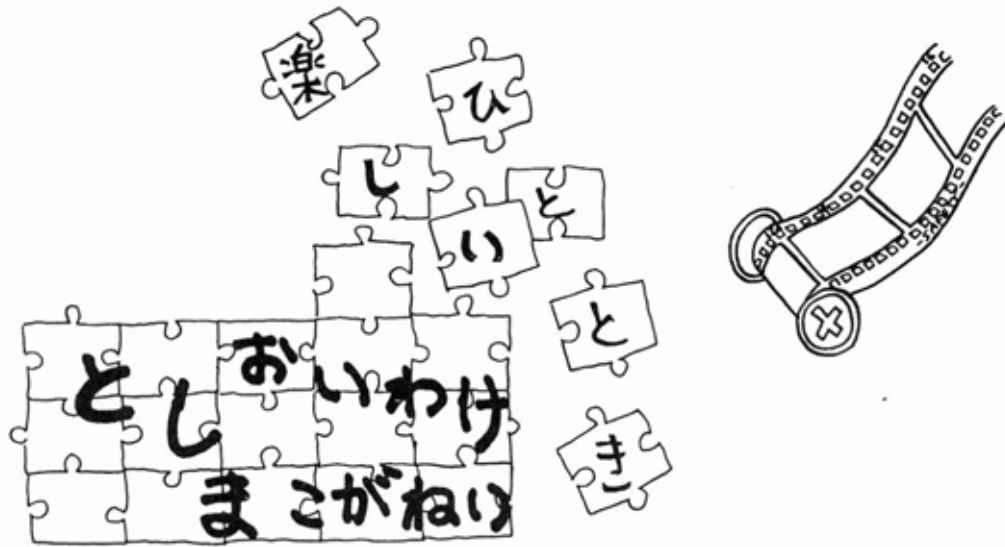
これまでの建物は、六十年の歳月で老朽化が進み、昨年十一月より工事が始まっていた用地の一部は地元漁協の申し入れにより返還し、契約を更改した。崩れていた崖は、葦草を刈払い、難工事の末に擁壁で固定した。延べ五百坪に及び木造の全四棟は、渡り廊下でつながっている。使った瓦は二万枚を超え、これほど多いのは近ごろ珍しいとか。児童室は一階に五室、二階に三室あって、ど

の部屋からでも直接海へ行けるようになってる。二階の海側には湾を一望できるテラスを設けた。長年住んでいる管理人も、こんな景色があったのかと驚くほどの、まさに絶景。部屋は、真中から仕切って小人数の宿泊も可能。浜から上がったら温水シャワーにかり、そのまま入浴できるようになっている。食堂棟は以前より五割広くなり、隣人の汗や、机・椅子に足をぶつけなくてもよくなった。集会や学習に用いる多目的室棟では、雨天時には簡単な運動、観察や実験もできる。医師や病人のための保健室と水泳助手用の部屋がある棟は、一番奥の山側に位置している。先述したように、小人数の宿泊も可能になりま

した。研修施設なので制限はあるものの、同窓生の皆さんも大いに利用して下さい。なお茅野の「二字荘」も既に改築を済ませ、備品も充実させました。併せて案内します。【申込方法】平日午後三時以降に小学校担当者へ電話。(〇四二三二二五二二一七内線二九五五) 荘へ直接電話で申し込んでも可。至楽荘〇四七〇一七六一二七九一(清水)・一字荘〇二六六二二四一七七(平出) (料金) 一泊一食大人(中学生以上) 五千円、小人(五歳以上) は四千五百円。※宿泊料にシーツ・枕カバー使用料、税等を含みます。(藤原直之)

至楽荘略図





「撫子の会」

第2回総会のお知らせ

今回の「撫子の会」の発足により豊島・追分・小金井小学校の同窓生の拠りどころがひとつになり、新たに組織の統一がはかられました。更に大きくなったひとつの輪をもっと広げてゆきたいものです。

今回の「発足会」はその基調をさらに強いものとしたと云えますが、今後は私たち全員の方で「撫子の会」をしっかりとお進みさせてゆきましょう。

その主旨に基づき次回、第2回の総会を、

平成六年六月四日(土) 午後

に開催いたします。

場所は今回の「発足会」と同じく、小金井小学校です。総会のご通知は来春に予定しておりますので楽しみにお待ち下さい。また皆様お誘い合わせのうえ是非ご出席下さい。

住所変更等の届けについて

今回の「発足会」においての基金の振込などを通じて住所等の変更のデータが沢山寄せられ「同窓生名簿」の充実がさらにはかられ、次回の名簿づくりへ向けて大きく前進いたしました。しかし、まだまだ充分とは言えず、今後も引き続きデータを蓄積、修正していく必要があります。同窓生の皆様のご協力をお願い致します。ご自身の変更事項はもとより、同期・先輩・後輩の方々の消息をも含めて下記までお知らせ下さるようお願い致します。

ご連絡には、

- ① 学校名(豊島・追分・小金井)
- ② 卒業年(中途者は計算して)
- ③ 氏名のふりがな(旧姓も)
- ④ 電話番号



- ⑤ 在学校名や勤務先を、また
- ア. 海外居住者は国内連絡先
- イ. 逝去者の遺族名や連絡先
- ウ. 退職された方は「元〇〇」等も連絡して

いただけますと、連絡・変更漏れがなくなるだけでなく、次回の名簿づくりの際に、また問い合わせ等に生きてくると思われまます。

〒一八四 東京都小金井市貫井北町四丁目一

東京学芸大学附属小金井小学校内「撫子の会」

「同窓会名簿」と記念誌「なでしこ」

の購入方法について

名簿、記念誌は一冊二千五百円(送料込み)でお届け出来ます。振替口座にお振込下さい。

① 振込先住所: 「撫子の会」と同じ

② 郵便振替口座の番号と名称 東京5120456番 東京学芸大学附属小金井小学校同窓会

「撫子の会」への基金振込のお礼

今回の「発足会」に際し、約二千名の方々より基金をいただきました。今後の活動に向けての大きな裏付けとなりました。また総会後にも沢山の方々より基金の振込が続いています。改めてお礼申し上げます。本

来であればご協力いただいた方々のご芳名を記載すべきですが紙面の都合上割愛させていただきますことをおわび致します。その意味をこめて、今回の会報はご協力いただいた方々のみの郵送となっております。引き続きご協力をお願い致します。

① 振込先住所: 「撫子の会」と同じ
② 郵便振替口座の番号と名称 東京01709121番 「撫子の会」

寄贈

同窓会へ貴重な物品の寄贈を受けました。ありがとうございます。ありがとうございました。

一九五〇年度版豊島小同窓会会員名簿

寺田近雄さん(豊、昭18年卒)

16mmフィルム1昭和十四年至榮荘、一字荘、成美荘1荻野良祐さん(豊、昭15年卒)

歴史的物品の寄付の場合

母校へ歴史的資料や思い出の物等等の寄付をしたいというお申し出の場合、同窓会に寄付していただく形をとります。ご承知おき下さい。

編集後記

会報の発行が遅れてしまいましたがかつと責任が果たせました。会報作成にあたりご協力いただいた方々には深く感謝いたします。作成にあたり多くの良き先輩方と親交が深まり、楽しい「飲み会」も増え、改めて同窓生の一員としての幸せを感じております。

(川田、島田・昭和41年小金井小卒)

